

2005年7月25日

# KAI ROTARY CLUB



SERVICE Above Self  
超私の奉仕

2005～2006年度 RI会長：カール・ヴィルヘルム・ステンハマー／第2620地区ガバナー：鈴木 亀雄 第320号  
名取則明会長 溝口秀男副会長 大木勝彦幹事 例会日：毎週月曜日19:00～20:00 例会場：甲府富士屋ホテル Tel.055-253-8111

## 第320回 甲斐ロータリークラブ例会

### 会長挨拶

7月11日 第319回

本日は、2620地区ガバナー鈴木亀雄ガバナー、井上龍朗地区幹事、飯田祥雄ガバナー補佐をお迎えしての例会です。

ロータリーの奉仕活動は、国際ロータリー・ステンハマー会長の「テーマ」・「方針」を受け、鈴木ガバナーが日本並びに地区の状況に合わせ、具体的行動指針に落とし込みを企画し、その方針にロータリークラブが奉仕活動の実施計画と独自の奉仕活動を組み合わせてクラブ計画を立案し、年度末までに実施遂行を完了する事だと思えます。

本日は、その中心であります、国際ロータリー・ステンハマー会長の考え方を受けた、鈴木ガバナーの考え方、方針、実行方法を直接指導頂ける大切な一日です。本日の例会を有意義なものとして下さい。

又、7月はRI会長のかかげる、識字率の向上月間です。言葉は、人が生きていくために最低必要で最大必要なことです。言葉はその国民が培ってきた生活、文化が背景にあります。文字は、言葉を時間経過の中で表す事と、多くの人に表現する方法と考えます。

日本では、先人たちの努力の結果、識字率も問題はありますが、日本の持つ言葉、表現文化を後世の人たちに残す事が責任と感じます。それは、日本の考え方、文化を世界に表現していく事だと思えます。

### 例会プログラム

クラブ協議会  
ガバナー補佐出席

### 次週の予定

8月1日 国際奉仕

### 幹事報告

地区事業について

#### 富士山の環境美化・そして世界遺産に

8月27日(土) 山梨第1分区・山梨第2分区  
合計14クラブ 646名

- ・青木ヶ原樹海又は西白塚エコツアー：2時間
- ・ゴミ拾い：1時間
- ・セミナー：1時間

#### 現代彫刻による「野生イネの自生地保全」プロジェクトへの協賛

1. 地区大会にて
  - ・ホテル庭園に作品、パネルを設置。(約3ヶ月展示)
  - ・文部科学省制作ビデオ「野生イネと生物多様性」を放映。
  - ・芸術家・田辺光彰氏と総合地球環境学研究所教授・佐藤洋一郎氏のシンポジウムを開催。
2. 一般市民向けに公開シンポジウムを開催。(2005年9月9日)
3. 作品設置銘版に「国際ロータリー第2620地区」の刻印。
4. オーストラリア・ケアンズのRCに提案、交流をはかる。

### ニコニコボックス

- ♥ 大口利用
- ♥ ダブル利用
- ♥ シングル利用

#### 【当クラブ】

♥ 名取則明・大木勝彦・溝口秀男・永井慶喜・小山利行・酒井かおる・小林和子・堀端耕司・大橋正哉・深澤由美子・志村忠彦・野口賢司・石原保夫・飯室元邦：鈴木亀雄ガバナー、飯田祥雄ガバナー補佐、井上龍朗地区幹事、本日はようこそお越しくださいました。一年間ご指導宜しくお願ひ致します。

## 出席報告

第319回例会出席者報告 会員数32名 出席者数25名 出席率78.13%

【本日の欠席者】白井行夫、京嵩久幸、笹本貴之、清水豊子、清水久、原俊、三井武雄

【6月27日修正出席率】90.63%

【ゲスト】(国際ロータリー第2620地区ガバナー) 鈴木亀雄 (国際ロータリー第2620地区幹事) 井上龍朗 (国際ロータリー第2620地区 山梨第1分区ガバナー補佐) 飯田祥雄 (交換学生) ギセラ・ガンバ

## ガバナー公式訪問

本日、クラブの皆さんにお目にかかれて大変嬉しく、光栄に思います。

ポールハリスが4人の仲間たちと子供時代のようにニックネームで呼べるような親睦関係と、お互い助け合おうとする相互扶助を目指してから100年が過ぎ、ロータリーも新しい世紀に入りました事は会員の皆さんもよくご存知の事と思います。米山圭三先生は「ロータリーは資本主義の矛盾を改めようとする一つの社会改良運動である。」と言っておられます。ロータリー精神の根本は私たちが従事している職業が社会、特に地域社会にとって役立っているという確信を持つ事にあり、私たちが職業に従事しているだけで社会に奉仕している事であり、どうぞ会員の皆様、皆さんの職業を通じて社会をリードされ、互いに助け合い素晴らしい地域社会の原動力になって頂きたいと思っております。

ステンハマー会長は2005-2006年度のテーマ演説で「ロータリーの新しい風が吹いています。それは継続性という風であって、その主たる方向は末永く同じものでなければなりません。」と言っており、この年度に取り組むべき強調事項を4つ設定されました。1つは「識字と教育」です。これはグレン会長の強調事項の継続であります。「識字能力というのは人間としてふさわしい生活を送るのに必要なニーズであると悟って選んだ。」と言っておられます。幸いにして日本におきましては識字率を問題にする必要はありません。そこで私はもう少し範囲を広げて青少年問題に取り組もうと考えました。地区協議会においても地区委員会のリーダーの方々がこの問題について真剣に検討されているようでありますので、ぜひとも皆様のクラブでも青少年問題に取り組んで頂ければ幸いです。

そしてもう1つグレン会長から引き継いだ強調事項としてステンハマー会長は「水保全」を選ばれました。国連は水の危機を「経済的發展、貧困緩和、環境そして平和と安全保障に対する脅威である。」と表現しました。「世界人口のおよそ40パーセント、すなわち26億人が基本的な衛生設備を持たず、10億人以上の人々が清潔で安全な飲用水を得る事が出来ません。」と話しておりますが、少なくとも現在の日本において水不足の問題はあるにしても貧困や争いの元にはなっておりません。「いさかきもなき水満々の青田かな」とは米山梅吉翁



(左) 飯田ガバナー補佐  
(右) 井上龍朗地区幹事

の句で、墓碑にも記してありますが、そのように幸せな日本である事に感謝すると共に、私は水保全からテーマをもう少し広げ、環境保全の問題として取り上げたく

思います。今年度の地区事業として私は、「富士山」の問題と「野生イネの保全」という事を提案させて頂きました。

まず「富士山」の問題ですが、富士山を世界遺産に登録しようとする運動に参画する事によって、日本のシンボルである富士山の環境汚染を私たちロータリアンが真正面から直視するべきだと考えました。



鈴木竜雄地区ガバナー

次に「野生イネの保全」という問題についてですが、私を助けてくれる多くの方々との話し合いの中で、田辺さんという彫刻家がこれについて大変関心を持たれている事を知りました。野生イネの保全の大切さについては学者・研究者が発表されていますが一般の関心は低く、田辺さんはご自分の彫刻を通じて世間に知ってもらおうと活動をしております。事実、タイのイネ自生地で作られた田辺さんのモニュメントはタイ王室の知るところとなり、これがきっかけでタイ国が国家的プロジェクトとしてイネの保全に取り組むようになったと聞いております。この度、田辺さんがオーストラリアに同じようなモニュメントを作ろうとされていると知り、私どもロータリアンも環境保全の1つのシンボルとして関心を持っている事を表したく、またそれによってロータリーの皆様に環境問題を考えて頂く1つのきっかけにしたいと、貴重な予算を頂いて応援しようと思っておりました。皆様のクラブにおかれましても地域社会に密着した環境保全の活動をして頂ければ幸いです。地域社会にロータリーの活動を知ってもらい、クラブの存在感を示して頂き、地域社会全体がそれに触発されて頂けたらと思います。ロータリーにおいて社会奉仕という言葉は短絡的なソーシャルサービスではなくコミュニティサービスである事を十分ご理解下さい。また、ステンハマー会長のテーマについてはインターネットで見ることが出来ますので、ぜひとも検索されてお読みくださる事を望みます。

最後に1点、ロータリーの存続にも関わる問題「会員増強」についてですが、ロータリーを末永く続けるためには会員を常に加え、新しい血を加えなければなりません。大変な時期ではあると思いますが、私たちのロータリーが地域社会にとってかけがえのない存在であるという事、クラブがクラブ会員にとってかけがえのない存在であるという事、そうしたクラブにするにはどうしたらいいのかという事をそれぞれの皆様がお考えになって、より活発なクラブにする事がぜひとも必要かと存じます。皆様のクラブが益々のご発展をされる事を願っております。ご静聴ありがとうございました。